

花粉の少ない森林をつくる

春を迎えるこの時期、スギなどから花粉が飛散し、花粉症を引き起こします。国や各都道府県では、花粉症対策の一環として、花粉の少ない苗木への植替えを進めています。このような取組（花粉発生源対策）を推進するためには、林業の成長産業化を図り、「伐って、使って、植える」といった森林資源の循環利用を確立することが必要不可欠です。今号では、東京都の取組を紹介します。

東京都の取組紹介

東京都の多摩地域には約3万haのスギ・ヒノキ人工林が広がっています。東京都では、平成18年から花粉発生源対策に重点的に取り組んでいます。担当者の桜井さんに取組について伺いました。

花粉発生源対策に 取り組んだきっかけは？

平成18年当時、東京都の花粉症患者の割合は約3割に達し、対策を進めることが急務でした。一方、木材価格の低迷などにより地域林業が停滞し、都内唯一の木材市場である多摩木材センターの取扱量は右肩下がりで減少。「多摩の林業は縮小から崩壊に向かっていると聞いても過言ではない」と評されるほどの状況でした。このため、都では花粉症対策と林



東京都で花粉発生源対策に携わる桜井さん。都庁の職員食堂のテーブル天板にも多摩産材が使われているそう。

業の再生に行政主導で取り組みました。

東京都の花粉発生源対策の ポイントは？

多摩の森林において「花粉の少ない苗木への植替え」を進めるため、これと同時に「木材利用の推進」に取り組まれました。

「花粉の少ない苗木への植替え（森林循環促進事業）」は、賛同してくれる森



東急池上線戸越銀座駅には多摩産材が使われています。(写真提供：東京都)

林所有者から立木を買い取り、伐採から植栽、20〜30年間の保育を所有者に代わり行政主導で行います（図1）。森林所有者の費用負担はほとんどありませんので、安心して主伐に賛同いただけています。この事業は、主に都からの出えんによる基金で行われますが、他にも『花粉の少ない森づくり運動』による都民や企業等からの募金などで実施しています（図2）。

「木材利用の推進」については、美術館など都有施設での率先利用のほか、保育園や公民館、駅舎などの公共建築物での利用を進めることで、多摩産材の認知度、需要が高まりました。減少していた多摩木材センターの取扱量も年間8千㎡から1万8千㎡（約7割）が森林循環促進事業による木材）まで増加し、地域の製材業者の設備投資も進み、今ではもっと多摩産材の供給量を増やしてほしいと言われるほどです。

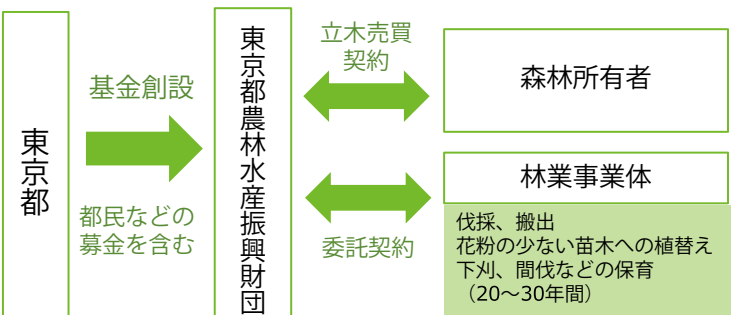


図1. 東京都の森林循環促進事業の流れ



(写真提供：全林協)



花粉発生源対策普及 シンポジウム 2018

平成30年度より一般の方を対象としたシンポジウムを開催！12月14日（土曜日）に東京都江東区の木材会館で実施し、**104名**の方にご来場いただきました。平成31年度も別の地域で実施予定です。

【講演内容】

林野庁と東京都の取組、花粉症対策品種やスギ花粉飛散防止剤の紹介、花粉と気候の関係、花粉症の治療法など



木材がふんだんに使われた会場で実施。花粉発生源対策には木材利用も重要です。



花粉症対策グッズの展示も好評！

※次回開催については決まりましたら、林野庁ウェブサイトでお知らせいたします。

▼林野庁の花粉発生源対策に関するウェブサイト



図2.花粉の少ない森づくり運動の主な取組(東京都)

すぐにサポート

花粉の少ない森づくり募金

募金は、樹齢30年以上のスギやヒノキ林の伐採、花粉の少ないスギ等への植替えなどに充てられます。金融機関への入金や募金箱、東京マラソンチャリティ、PASMOカードでのお買い物で募金できます。



PASMOで募金できる店
や自販機のシール

みんなでサポート

企業の森

森林所有者、協賛企業・団体、東京都農林水産振興財団の三者が協定を締結。協賛企業・団体には、花粉の少ない森づくり募金への協力と森林整備等相当分を寄附してもらいます。協定期間中は、社員体験・研修の場として森林を利用できます。



ずっとサポート

森づくり支援倶楽部

花粉の少ない森づくり募金に一定額以上寄附すると会員になれます。会員は多摩の森林の魅力が感じられる特典が受けられます。



会報誌



木工品(多摩産材使用)

その他、イベント参加費無料や協賛施設割引など

会員特典

上記取組の詳細はウェブサイトでご覧いただけます。

花粉の少ない森づくり運動

検索

植替え箇所の確保など
調整が大変なのは？

開始当初こそ植替え箇所の確保は困難でしたが、事業を進めるうちに、森林所有者の方から申込をいただけるようになりました。この結果、平成29年度までの12年間で契約面積は約800haに達しています。一方で、東京都は急峻な山林が多く、木材の撤出には架線集材が必要ですが、都内にはその技術を有する林業事業体が少なく、契約数の増加に伐採の実行スピードが追いついていません。花粉の少ない苗木への植替えを進めるためには、担い手不足が課題の一つです。

植替えも着実に進んでいます。
今後、東京都が目指す
森づくりとは？

花粉発生源対策を契機として、多摩の林業は再生へ向けて前進しています。さらに花粉の少ない苗木への植替えを進めるためにも、大消費地に近いなど東京都の強みを活かした取組を通して、地域林業の成長産業化を進めていきたいです。東京都では昨年11月に50年、100年先を見据えた東京の森林の将来展望「東京フォレストビジョン」を策定しました。このビジョンに基づく森林・林業の振興に関する取組によって、花粉の少ない森林づくりも進めていきたいと考えています。